

## 福井地震(1948年)に遭遇した大和百貨店の従業員はいかに行動したか？

正会員 ○ 瀬尾 和大

福井地震	大和百貨店	人的被害
人間行動	聞き取り調査	地震火災

## はじめに

福井地震は、戦後間もない1948年6月28日に福井平野で発生した浅発の直下地震(M7.1)である。福井平野の内部における住家の全潰率は、直後の警察の調査でほぼ100%、後の建築学会による詳細調査でも広域に亘って60%以上という凄まじいものであった(図1)[1~3, 6, 10]。RC建物は概して被害軽微であったが、福井市中心部に位置する大和百貨店の被害は甚大で、その原因を明らかにするための詳細な構造被害調査が行われた[3, 6, 10]。その一方、“人的被害”との概念は未だ存在せず、壊滅的被害を受けた大和百貨店の中に人が居たかどうかについて、詳細な学術調査報告書には何の記述もなかった[1, 3, 10]。唯一、福井烈震誌[6]の中に松井源吾の『大和百貨店』と題する論文の引用があり「この建物の倒壊で1名の死者も出さなかったことは不幸中の幸いといわなければならない」との記述がある。因みに、震災時の人的被害や人間行動のことが注目されるようになったのは、1978年宮城県沖

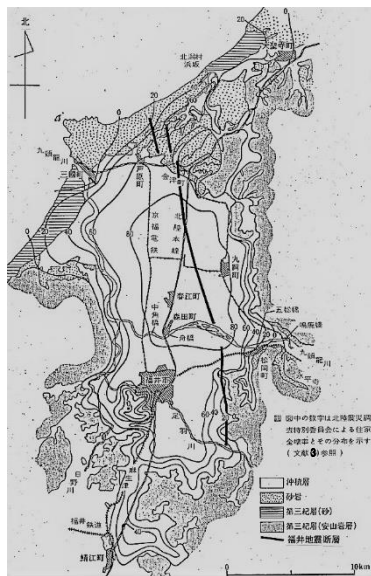


図1 福井平野における全潰率の分布  
(文献[3]に基づき加筆)



写真1 福井地震で破壊され火災に見舞われた大和百貨店(文献[3]より)

地震の際の太田裕ら当時の北大グループを嚆矢としており、同様の人間行動の調査は後日、東京都立大(当時)の研究グループによって福井地震についても試みられた[7]。しかし、その中に大和百貨店に関する記述はなかった。

## 大和百貨店には地震の最中に人は居たのか？

以上のような経緯から、大和百貨店の中の人的被害については以前から気になりながらも何の進展もなかった。偶々金沢で建築学会年次大会が開催された1983年に、金沢の大和デパート本店の従業員から聴取した話は「震災の時は福井に勤めていた。地震当日、デパートは休館日で買い物客は居なかった。屋上では従業員の職場集會が開かれており、慌てて階段を降りようとした人が怪我をした。」と云うもので、筆者はこの話をずっと信じていた[8, 9]。ところが2009年になって「買い物客の殆どが圧死した」との記述が地震啓蒙書[11]の中にあるとの情報を得たことから、改めて大和デパート金沢本店に問い合わせしてみた。これには当のデパート側でも大変驚いて、社史や当時の従業員名簿を提供してくださった。自分でも当時の新聞記事を再確認し「全壊致しましたが人命には損傷なく」という震災見舞御礼の新聞広告(図2)を新たに発見した。デパートの社史[4, 5]によれば「おりから従業員大会のため全員が6階に集まっていたので、はからずも全員125名一致の行動がとれ、怪我人を少々出しただけで全員脱出に成功した」とのことであった。何と125名もの方々があの崩壊建物の中に居られたのである(写真1)。また当日は休館日ではなく、夕方5時(当時は夏時間)の閉店までは大勢の買い物客が居られたはずで、地震が発生した5時13分までの時間は僅か10数分という際どいものであったことも判明した。

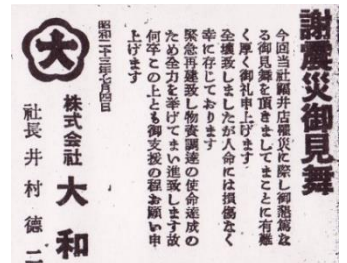


図2 福井新聞(1948.7.30.)に掲載された震災見舞御礼の広告

## 遅ればせの聞き取り調査

大和デパート金沢本店から提供を受けた従業員名簿をもとに、これまでの経緯と調査の目的をご説明した上で、2009年9月に62通の質問状を郵送した。そして11月初旬までの間にご家族やご遺族を含めて21通の回答を戴いた。

How did the employees of Daiwa department store behave during the 1948 Fukui M7.1 earthquake?

SEO Kazuo

調査内容と回答結果は凡そ以下のごとくであった。

(問1)福井地震のことを覚えておられますか？

はい 10 いいえ 2 無回答 9

(問2)地震の時、大和百貨店の中にいましたか？

はい 4 いいえ 7 無回答 10

(問3)その時、建物からどのように避難したか。記憶に残っていることはありますか？

はい 5 いいえ 4 無回答 12

(問4)貴方にお伺いしたら、その時の避難のことをお話ししていただけますか？

はい 3 いいえ 9 付記あり 9

聞き取り調査を承諾して下さった方が3人も居られたことは大きな成果であったが、なぜ面談に応じられないか、その理由を手書きで寄せて下さった方々にも心からの謝意を表したい。それらの内訳は、すでに他界している(1)、地震の時は退職していた(5)、逆にまだ幼少であった(1)、生まれていなかった(2)、など多岐にわたっていて、60年後に調査することの困難さが痛感された。

### 聞き取り調査から解かったこと

聞き取り調査は2009年12月7、8日に福井市に伺って実施した。主な聞き取り結果は以下のごとくであった。

#### 1. 福井市内在住 Mさん (震災当時21歳)

3階の会計本部に勤務。閉店後別館の保安係(金庫)に立ち寄り、職場集会には一番最後に入室。直後に地震。6階食堂に居た前方の人達は表(北側)の階段から、後方の人達は裏手(南側)の階段から避難。地震の揺れで、エレベーターの扉が3回くらい開いたり閉まったりしているのを見た。一旦は足羽川の方へ避難し、後に順化小学校に集合した。多勢の中では真っ先に従業員用の階段で避難した(一番後ろの出口に近い所に居たので)。問題な



図3 福井市内における建物配置と地震火災の範囲(文献[3]に加筆)

く避難できたので、建物崩壊は火災の後ではないかと思う。2~3日後に忘れた傘を取りに6階まで行った。傘はあった。Sさんと一緒に逃げた。(一部は[12]に報告済)

Mさんのご主人の話：舟橋近くで泳いでいた。津波があり、川底が不安定になったと云う記憶がある。

#### 2. 福井市内在住 Nさん

すでに亡くなられており、長女の方にご挨拶に立ち寄る。

3. 福井市内在住 Kさん (震災当時28歳、養護施設に入所中) 当時は呉服売りの担当。地震時に窓から避難したのは確か。避難先は中央公園、皆一緒に行動した。

#### 4. あわら市内在住 Sさん (震災当時20歳)

人事担当で別館勤務。エレベーターで6階食堂へ。食堂のサンプルが飾ってある所で地震に遭った。すぐに従業員用の中階段で避難した。一緒に何人かと行動したがMさんではなかったように思う。別館には1階に仕入れ部、2階に会計・人事部があった。食堂をテリア、トイレをサンサンと呼んでいた。6階は全フロアが食堂で広がった。避難は順化小学校にひと晩だけ。中角へ渡し舟で渡し、線路伝いに裸足で20km、あわらまで歩いた。

文中で\_\_\_\_\_を付したところは筆者が特に注目している箇所である。大和百貨店からの屋外脱出に火災は関係なかったはずであるが、その後の順化小学校や中央公園への移動と地震火災との関係には気になる点も多い(図3)。

### おわりに

これまで福井地震について文献調査や現地調査を行い、最後に残ったのが「大和百貨店には地震の最中に人は居たのか？」と云う極めて素朴な疑問であった。構造被害に対しては亀裂の一本一本まで詳細に調査するが、我々はそれに匹敵する努力を、被災者に対して行ってきただろうか。本報がこのための問題提起になれば幸いである。末尾ながら榊大和のご関係各位に厚く御礼を申し上げる。

### 参考文献

- [1]昭和23年福井地震調査研究速報、日本学術会議福井地震調査研究特別委員会、1949.
- [2]福井震災誌、福井県、1949.
- [3]昭和23年福井地震震害調査報告(I:土木部門 II:建築部門)、北陸震災調査特別委員会、1950.
- [4]新保辰三郎・新保千代子：井村徳二伝、井村徳二伝記刊行会、1965.
- [5]大和五十年史刊行委員会：大和五十年のあゆみ、北国出版社、1972.
- [6]福井烈震誌、福井市、1978.
- [7]堀口孝男・望月利男・荒木正孝・前田博司・小坂俊吉：地震時の人間行動に関する研究 その2. 1948年福井地震、東京都立大学都市研究センター、総合都市研究、第26号、pp.59-85、1985.
- [8]瀬尾和大・佐間野隆憲：震災が地域社会に及ぼす影響 その1~4、建築防災、No.105-108、1986.
- [9]瀬尾和大・佐間野隆憲：直下地震による福井大震災からの教訓、日本建築学会第19回地盤震動シンポジウム、pp.9-16、1991.
- [10]谷口仁士(編集・解説)：よみがえる福井震災 第1巻；The Fukui Earthquake, Hokuriku Region, Japan, 28 June 1948, 第2巻；写真集、現代史料出版、1998.
- [11]安藤雅孝・田所敬一・林能成・木村玲欧：いま活断層が危ない 中部の内陸直下型地震、中日新聞社、2006.
- [12]瀬尾和大：私の研究遍歴—工学地震学から社会地震学へ、第113回工学地震学・地震工学談話会、東京工業大学、2010.